

目次

はしがき ……1

(引用等の表記方法について) ……8

1 章 政策実施論と曖昧さ	9
1. 政策の実施過程とは	9
1.1. 「発見」	9
1.2. 捉え方のすれ違い	10
1.3. 実施研究への期待?	12
1.4. 基本用語の本書における意味について	14
2. 実施論の主な先行研究	20
2.1. 最初の10年	20
2.2. 衰退期	23
2.3. 日本の実施論	25
2.4. 最近の理論的動向をめぐって	28
3. 本書のアプローチ	31
3.1. 方向性	31
3.2. 章立て	33
(1章の図表)	35
2 章 実施論の嚆矢	39
1. はじめに	39
2. 主力の四事業	41
3. 政治主導と失速	43
4. 関連事業の失敗ケースと成功ケース	47
4.1. 二つの関連事業	47
4.2. 事業ローンの失敗	47
4.3. 保健所の成功	49
4.4. 小括	51

5.	「遅れ」の分析.....	51
5.1.	勝率.....	51
5.2.	ロスタイム.....	53
5.4.	特異な例なのか.....	54
6.	学習困難だったEDA.....	55
7.	彼らの結論.....	60
8.	まとめと批判的検討.....	61
	(2章の図表).....	64
3章	トップダウン／ボトムアップ論争.....	65
1.	はじめに.....	65
2.	「第二世代」の提唱.....	66
3.	第二世代への批判.....	68
3.1.	全体的傾向.....	68
3.2.	バレットらのこだわり.....	71
3.3.	バレットらへの疑問.....	74
3.4.	サバティアの反論と統合モデル化.....	79
4.	なにがトップダウン派の条件なのか.....	82
4.1.	ウィルダフスキーはトップダウン的か.....	82
4.2.	ヒルとヒューブの理解.....	83
4.3.	論争に対するウィルダフスキー.....	86
4.4.	バレット再訪.....	89
4.5.	小括.....	96
5.	まとめ.....	96
	(3章の図表).....	99
4章	ストリートレベル官僚制論の今日的検討.....	103
1.	はじめに.....	103
2.	SLBの定義.....	104
3.	日本での受容と派生.....	107
4.	「超えて」いこうとする二つの研究.....	111

4.1.	英国での再検討	111
4.2.	エバンズの主張	113
4.3.	デュローズの主張	115
4.4.	それぞれの弱点と示唆	118
5.	リプスキーに戻って	120
5.1.	1993年	120
5.2.	2010年	121
5.3.	求められる別の観点	125
6.	まとめ	127
	(4章の図表)	129
5章	パブリック・エンカウンターと統治	131
1.	はじめに	131
2.	パブリック・エンカウンター	132
2.1.	グッゼル	132
2.2.	畠山	134
3.	ゴフマンの「エンカウンター」	137
3.1.	基本概念の確認	137
3.2.	実施論への接続ミス	140
4.	行政学での新動向	143
4.1.	英国のパーテルズ	143
4.2.	PEに類似した従来の議論	143
4.3.	パーテルズによる代案	145
4.4.	長所と短所	147
5.	ソーシャルワークと社会理論	149
5.1.	デンマークにおける研究	149
5.2.	フーコー	150
5.3.	ゴフマン	153
5.4.	ブルデュー	155
5.5.	ルーマン	157
5.6.	検討と補足	161

6.	まとめ	165
	(5章の図表)	167
6章	政策実施と政治	168
1.	はじめに	168
2.	政治をめぐる主要な先行研究	168
2.1.	政治闘争をめぐる	168
2.2.	セルズニック	169
2.3.	ダーシク	173
2.4.	バーダック	175
2.5.	ブラッドキン	178
2.6.	マットランド	181
2.7.	マクドネルとウエザーフォード	186
2.8.	小括	189
3.	考察	191
3.1.	足りないもの	191
3.2.	再承認の位置づけ	193
3.3.	機能するか	195
3.4.	小括	197
4.	まとめ	198
	(6章の図表)	202
7章	まとめとこれから	205
1.	実施論の基本的な論点	205
2.	「統治」と「エンカウンター」の重視	208
3.	残った課題	212
	参考文献	214
	あとがき	235

(引用等の表記方法について)

- ・ 『 』 書名に用いる。
- ・ 「 」 引用箇所を示す。引用文中で重ねて用いることもある（例：「何某は「然り」と言った」）。
- ・ [] 引用文中では筆者の挿入箇所用いる。ただし、文献表記で数字とともに用いる場合は、その初版の出版年を表す（例：〇〇2010 [1990]）。
- ・ … 引用の部分省略を示す（例：「近代国家…の変化」）。
- ・ 欧語の斜字体 外国文献（原書）の書名に用いる。ただしまれに原文の強調を示すこともあるが、その場合は添え書きする（例：*policy*（強調原文））。
- ・ 欧語文献の著者名は、本文中ではカタカナで表記するが、脚注では原則として原語表記のみとする。
- ・ 図表は、編集作業の都合で章末にまとめる。